

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公表番号】特表2008-530269(P2008-530269A)
 【公表日】平成20年8月7日(2008.8.7)
 【年通号数】公開・登録公報2008-031
 【出願番号】特願2007-554176(P2007-554176)
 【国際特許分類】

C 0 8 F 2/40 (2006.01)

C 0 7 C 7/20 (2006.01)

C 0 7 C 15/46 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 2/40

C 0 7 C 7/20

C 0 7 C 15/46

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年4月20日(2010.4.20)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

スチレン系単量体の早期重合を抑制するための方法であって、

(A) 製造又は精製過程の任意の時点において、前記スチレン系単量体のカチオン重合を開始し、結果として温度上昇を起こすのに十分な濃度の、スルホン酸化合物である少なくとも一種の阻害剤；及び

(B) 前記カチオン重合及び前記温度上昇を減少するのに十分な濃度の、トリエチルアミン、ジエチルアミン、トリブチルアミン、ピリジン、及びN-(1,4-ジメチルペンチル)アニリンからなる群から選択される少なくとも一種のアミン；

の組合せを前記単量体に添加することを含み；

それにより前記スルホン酸化合物と前記スチレン系単量体との非制御発熱反応が防止される方法。

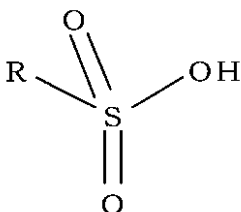
【請求項2】

スルホン酸化合物が、0.001～10重量%の濃度で単量体中に存在する、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

スルホン酸化合物が、構造；

【化1】



(式中、Rは、ヒドロキシル基、1～32個の炭素原子を有する直鎖又は分岐鎖アルキル基、又は1～32個の炭素原子を有する少なくとも一つの直鎖又は分岐鎖アルキル基をそれぞれ有するアルキルフェニル又はアルキルナフチル基である。)の少なくとも一種の化合物を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

Rが、1～18個の炭素原子を有する少なくとも一つの直鎖又は分岐鎖アルキルを有するアルキルフェニル基である、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

アミンが、スルホン酸化合物1モル当量当たり0.1～2.0モル当量の濃度で存在する、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記スルホン酸化合物以外に、少なくとも一種の第二阻害剤を更に含む、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

第二阻害剤が、ニトロフェノール、ニトロキシル化合物、及びニトロソアニリンからなる群から選択される、請求項6に記載の方法。

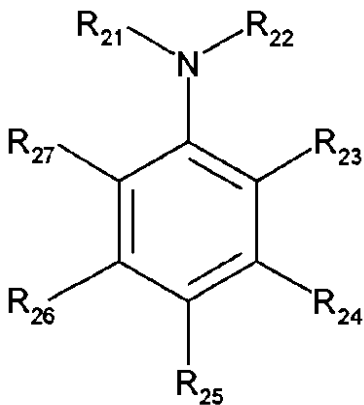
【請求項8】

第二阻害剤が、2,4-ジニトロ-6-sec-ブチルフェノールである、請求項7に記載の方法。

【請求項9】

第二阻害剤が、構造：

【化2】



〔式中、R₂₁及びR₂₂は、水素、アルキル、アリール、アシル、ヒドロキシル、アルコキシ、ニトロソ、及びスルホニルからなる群から独立に選択されるか、又はR₂₁及びR₂₂は、アリール、シクロアルキル、ポリアリール、又は複素環である環を形成することができる；

R₂₃～R₂₇は、水素、アルキル、アリール、アシル、ヒドロキシル、アルコキシ、アシルオキシ、NR₂₈(R₂₉)、ニトロ、ニトロソ、ハロゲン、及びスルホニルからなる群から独立に選択されるか、又は任意の二つの隣接するRは、アリール、シクロアルキル、ポリアリール、又は複素環である環を形成することができ、但しR₂₃～R₂₇の少なくとも一つはニトロソ基でなければならないものとし；

R₂₈及びR₂₉は、水素、アルキル、アリール、アシル、及びニトロソからなる群から独立に選択される。〕

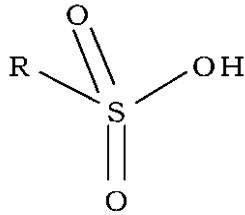
のニトロソアニリンである、請求項7に記載の方法。

【請求項10】

スチレン系単量体の早期重合を抑制するための方法であって、

(A) 単量体の 0.001 ~ 10 重量%の、構造；

【化 3】



(式中、Rはヒドロキシル基、1~32個の炭素原子を有する直鎖又は分岐鎖アルキル基、又は1~32個の炭素原子を有する少なくとも一つの直鎖又は分岐鎖アルキル基をそれぞれ有するアルキルフェニル又はアルキルナフチル基である。)

のスルホン酸化合物である少なくとも一種の阻害剤；

(B) 前記スルホン酸化合物1モル当量当たり0.1~2.0モル当量の、トリエチルアミン、ジエチルアミン、トリブチルアミン、ピリジン、及びN-(1,4-ジメチルペンチル)アニリンからなる群から選択される少なくとも一種のアミン；及び、任意選択的に、

(C) ニトロフェノール、ニトロキシル化合物、及びニトロソアニリンからなる群から選択される少なくとも一種の第二阻害剤；

の組合せを前記単量体に添加することを含み、

それにより前記スルホン酸化合物と前記スチレン系単量体との非制御発熱反応が防止される、請求項1に記載の方法。

【請求項11】

(A) スチレン系単量体；

(B) 製造又は精製過程の任意の時点において、前記スチレン系単量体のカチオン重合を開始し、結果として温度上昇を起こすのに十分な濃度の、スルホン酸化合物である少なくとも一種の阻害剤；及び

(C) 前記カチオン重合及び前記温度上昇を減少するのに十分な濃度の、トリエチルアミン、ジエチルアミン、トリブチルアミン、ピリジン、及びN-(1,4-ジメチルペンチル)アニリンからなる群から選択される少なくとも一種のアミン；

を含む組成物。

【請求項12】

スルホン酸化合物が、0.001~10重量%の濃度で単量体中に存在する、請求項11に記載の組成物。

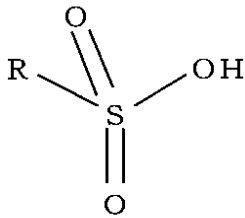
【請求項13】

アミンが、スルホン酸化合物1モル当量当たり0.1~2.0モル当量の濃度で存在する、請求項11に記載の組成物。

【請求項14】

スルホン酸化合物が、構造；

【化 4】



(式中、Rは、ヒドロキシル基、1～32個の炭素原子を有する直鎖又は分岐鎖アルキル基、又は1～32個の炭素原子を有する少なくとも一つの直鎖又は分岐鎖アルキル基をそれぞれ有するアルキルフェニル又はアルキルナフチル基である。)の少なくとも一種の化合物を含む、請求項11に記載の組成物。

【請求項15】

前記スルホン酸化合物以外に、少なくとも一種の第二阻害剤を更に含む、請求項11に記載の組成物。

【請求項16】

第二阻害剤が、ニトロフェノール、ニトロキシル化合物、及びニトロソアニリンからなる群から選択される、請求項15に記載の組成物。

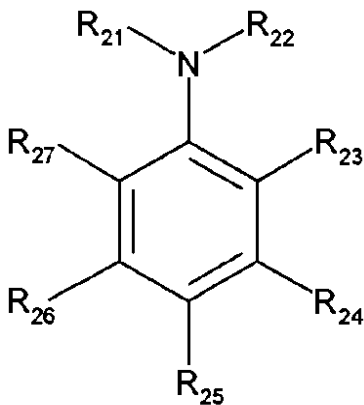
【請求項17】

第二阻害剤が、2,4-ジニトロ-6-sec-ブチルフェノールである、請求項15に記載の組成物。

【請求項18】

第二阻害剤が、構造：

【化 5】



〔式中、 R_{21} 及び R_{22} は、水素、アルキル、アリール、アシル、ヒドロキシル、アルコキシ、ニトロソ、及びスルホニルからなる群から独立に選択されるか、又は R_{21} 及び R_{22} は、アリール、シクロアルキル、ポリアリール、又は複素環である環を形成することができ；

$R_{23} \sim R_{27}$ は、水素、アルキル、アリール、アシル、ヒドロキシル、アルコキシ、アシルオキシ、 NR_{28} (R_{29})、ニトロ、ニトロソ、ハロゲン、及びスルホニルからなる群から独立に選択されるか、又は任意の二つの隣接するRは、アリール、シクロアルキル、ポリアリール、又は複素環である環を形成することができ、但し $R_{23} \sim R_{27}$ の少なくとも一つはニトロソ基でなければならないものとし；

R_{28} 及び R_{29} は、水素、アルキル、アリール、アシル、及びニトロソからなる群か

ら独立に選択される。]

のニトロソアニリンである、請求項 15 に記載の組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

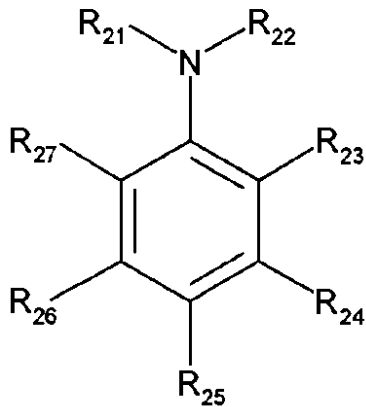
【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

【化 3】



【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

〔式中、 R_{21} 及び R_{22} は、独立に、水素、アルキル、アリール、アシル、ヒドロキシ、アルコキシ、ニトロソ、及びスルホニルからなる群から選択されるか、又は R_{21} 及び R_{22} は、アリール、シクロアルキル、ポリアリール、又は複素環である環を形成することができる；

$R_{23} \sim R_{27}$ は、独立に、水素、アルキル、アリール、アシル、ヒドロキシ、アルコキシ、アシルオキシ、 NR_{28} (R_{29})、ニトロ、ニトロソ、ハロゲン、及びスルホニルからなる群から選択されるか、又は任意の二つの隣接する R は、アリール、シクロアルキル、ポリアリール、又は複素環である環を形成することができ、但し $R_{23} \sim R_{27}$ の少なくとも一つはニトロソ基でなければならないものとし；

R_{28} 及び R_{29} は、独立に、水素、アルキル、アリール、アシル、及びニトロソからなる群から選択される。]

を持つのが好ましい。 R_{28} が水素で、 R_{29} がアルキルであるのが好ましい。